

# 読書推進運動



公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘  
編集人 片岡 伸子

定価 60円  
会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No.645

★「敬老の日読書のすすめ」書目一覧(2頁)

★野間読書推進賞受賞者の活動報告(5頁)

「敬老の日読書のすすめ」によせて



## 中村医師の覚悟と凄み 『希望の一滴 中村哲、アフガン最期の言葉』

株式会社 西日本新聞社  
出版グループ

たなかなおこ  
田中直子

「医療に恵まれないパキスタンで一粒の麦になりたい」

辺境の地で人道支援に尽くした中村哲医師(享年73歳)は1984年、パキスタン・ペシャワールの病院に初めて赴く際、西日本新聞にそう語っています。一粒の麦は、地に落ちることによって無数の実を結ぶと説いた、キリストの言葉を新約聖書から引用したものです。

それから35年、2019年にアフガニスタンで凶弾に倒れるまで、中村医師は一貫して苦しむ人々に寄りそい続けました。医療活動は内戦で多くの人が難民化したアフガニスタンへと拡張。そこでは大千ばつに直面し、「百の診療所より一本の用水路を」と井戸掘りから用水路の建設へと突

き進みました。

中村医師は折にふれて、現地での活動を随想とともに紹介する原稿を、西日本新聞に寄せてきました。2009年に始まったのが「アフガンの地」と題した随時連載。銃撃事件の直前まで続き、これを編み直したのが本書です。刊行にあたり編集を任せられた私は当初、戸惑いました。

彼の死が世界に与えた衝撃が大きかった分、それを商機にするようで気が進みませんでした。中村医師と直接の面識がなかったことも一因です。私は中村医師に関する西日本新聞のすべての過去記事を読み込むことにしました。そして冒頭の言葉に出合います。中村医師は当時37歳。「他人様を助けることは何かを捨

てることである。与えるとは

自分の何かを失うことである」(同41歳)とも。その覚悟と凄みに、私は圧倒され、本として残さねばと突き動かされました。

芥川賞作家 火野葦平を伯父にもつ中村医師は「言葉の人」。行動に裏打ちされた言葉が多くの人を圧倒し、突き動かしてきました。彼を訪ねてアフガニスタンに取材に行つた西日本新聞の記者もそのひとりです。「現場人間として申します。国連やマスコミなどの学歴の高い人は危険な現地に行かない。だが、我々は実地で判断します」という中村医師の言葉で、現地取材を決めたといえます。

人間味あふれるエピソードにも多く出合いました。学生

時代、医学部紛争に嫌気がさして休学し、スチール家具の製造工をしたこと。日本の電器店で外国人に間違われ、英語で店員とやりとりしたという、いたずらっぽい逸話は、中村医師を支援したNPOペシャワール会(福岡市)の会報で、長女 秋子さんが紹介しています。中村医師は世界に誇る偉人ですが、決して超人的な力を持つスーパーヒーローなどではなく、我々と同じ「人間」だということを、あらためて感じました。

「一粒の麦」は、人の幸福のために自らを犠牲にする人のたとえ。中村医師は、麦どころか水さえも口にできない土地で奔走しました。「見捨てられた地」に導いた水の一滴滴が恵みをもたらし、人々の希望となりました。それは同時に、飢餓とは縁遠い日本で生かされている私たちの心に、波紋を生じる一滴でもあります。

「私たちはどこに向かおうとしているのか」  
中村医師が問いかけます。



# 2021 敬老の日読書のすすめ

## 心ゆたかに生涯読書

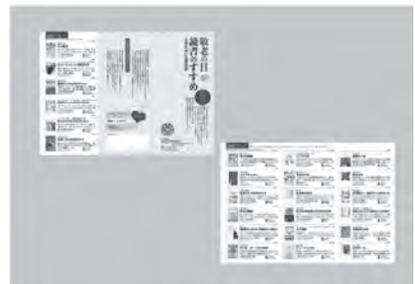
「2021 敬老の日読書のすすめ」は、各道府県の読書推進運動協議会からよせられた「敬老の日（高齢者）にすすめる本」の推薦書目をもとに、公益社団法人読書推進運動協議会事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布します。

本年度は40の読進協から、74点の書目の推薦をいただきました。もつとも多くの推薦があったのは、樋口恵子の『老いの福袋』で、9つの読進協から推薦がありました。ついで、篠田桃紅の『これでおしまい』が7つの読進協から、藤野千夜『じい散歩』が6つの読進協から推薦があり、人気を集めました。

今回は、著者が女性のエッセイ作品や祖父母がテーマの小説・絵本への推薦が多くありました。事業委員会の書目選考基準は、

- ①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。本年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、メールでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

この推薦図書を掲載したリーフ



今年は落ち着いた葡萄色です

レットは、14万3000部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布し、活用していただきます。当協議会ホームページに、展示用ポップのデータもあります。

リーフレットは多少の予備を用意しておりますが、昨年はコロナ禍で敬老会を中止した自治体もあり、記念品とともに対象者へ贈りたいと、例年以上の「ご希望をおただき、早々と在庫切れとなりました。必要な方は、早めに当事務局までお問い合わせください。」  
 ☎03-52244-5270  
 FAX 03-52244-5271  
 e-mail info@dokusyo.or.jp  
 ホームページ

<http://www.dokusyo.or.jp/>

「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

著者名	書名	定価	出版社
樋口 恵子	老いの福袋	一五四〇円	中央公論新社
篠田 桃紅	これでおしまい	一五四〇円	講談社
上野千鶴子	在宅ひとり死のススメ	八八〇円	文藝春秋
落合 恵子	明るい覚悟	一六五〇円	朝日新聞出版
村上 祥子	料理家村上祥子式78歳のひとり暮らし	一七六〇円	集英社
石川 文洋	80歳、歩いて日本縦断	二七五〇円	新日本出版社
住田 裕子 (監修・著)	シニア六法	一八七〇円	KADOKAWA
横手 彰太	老後の年表	一六五〇円	かんき出版
林 望	定年後の作法	九二四円	筑摩書房
平松 類	老人はA+社会をどう生きるか	九四六円	祥伝社
アンデレハレン (著) 久山 幸子 (訳)	スマホ脳	一〇七八円	新潮社
岡田 悠	Oメートルの旅	一七六〇円	ダイヤモンド社
中村 哲	希望の一滴	一六五〇円	西日本新聞社
夏川 草介	臨床の砦	一六五〇円	小学館
町田 敦子	夫が倒れた！ 献身ブレイが始まった	一四三〇円	主婦の友社
養老 孟司 伊集院 光	世間とズレちゃうのはしょうがない	一五九五円	PHP研究所
門賀美央子	文豪の死に様	一六五〇円	誠堂新光社
井上 潤	渋沢栄一伝	二六四〇円	ミネルヴァ書房
藤野 千夜	じい散歩	一七六〇円	双葉社
スウェン(著) アンナ ザイ(監修) 菅野 真子 (訳)	おじいちゃんとの最後の旅	一八七〇円	徳間書店
藤田 芳康	屋根の上のおばあちゃん	一七六〇円	河出書房新社
シモーナ・ナチオロ (著) 福本美子 (訳) ソ・ヨン (作)	おばあちゃんのたからもの	一五四〇円	光村教育図書
斎藤真理子(訳)	おじいちゃんのたびじたく	一五四〇円	小峰書店
青山美智子	お探し物は図書室まで	一七六〇円	ポプラ社



2021・第75回

# 「読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の秋の行事「読書週間」を、本年も主催いたします。

例年同様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

中およびその前後を通じ、自由な発想による企画を多数お進めいただき、この運動の実効が上がりま

すよう、お願い申し上げます。  
今年の標語は「最後の頁を閉じた 違う私がいいた」です。期間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

今年も新型コロナウイルス感染症は未だ収束を見ておりませんが、感染症対策の経験蓄積と現場の方々の方力によって、各図書館・類縁機関、教育機関、書店など、本と読者をつなぐアクセスポイントは確保できています。読書推進に携わるみなさまの「苦労・ご負担は大きいことと存じますが、このような時期だからこそ、ひとりでも楽しむことができ、また、多くの人の心を結ぶこともできる読書の魅力、本の力を広く発信して

いただきたいと思います。

公益社団法人 読書推進運動協議会は、下記の4項目を「読書週間」のテーマとして掲げています。

### (1) 国民すべてに

#### 読書をすすめる運動

「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の本を」が活動の原点です。「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちに本に親しむきっかけをつくっていただくためにあります。多くの人が書店や図書館で一冊の本を手にとり、そんな展示や行事を期待しています。

### (2) とくに青少年に

#### 読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読まなくなつた」といわれてきました。近年は、受験戦争に加え、映像や電子メディアなどの発達でますます子どもたちの「読書」の時間がせぼめられています。しかし、どんなメディアの時代でも、

それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディアの基礎です。とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要という認識のもとに、この運動を進めています。

### (3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書会、文庫、実演グループなど)は約1万2300あります(公益社団法人 読書推進運動協議会『2018年度 全国読書グループ調査』より)。グループ読書は読書の楽しみ、大切さを広めることで深い意義を持ちます。公益社団法人 読書推進運動協議会は「読書週間」の期間中に「野間読書推進賞」と「全国優良読書グループ表彰」を実施し、全国の読書グループを応援しています。

### (4) 家庭文庫、地域文庫、職場文庫の充実

読書は身近な場所に本が豊かにあることが必要です。各地域の公共図書館が充実し、読書グループ

や家庭文庫、地域文庫が数多く作られること、また、図書館や文庫を支える地域の書店の活躍が、本の文化を支え、ひいては日本文化の発展に寄与することと私たちは信じています。

2005年(平成17年)7月29日に公布された「文字・活字文化振興法」により、10月27日が「文字・活字文化の日」と制定されています。「読書週間」とともに、「文字・活字文化の日」もおおいに広めていただきたいと思います。

## 記

名称 2021・第75回

読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版取次協会、日本図書館協会、全国学校図書館協議会、日本書

店商業組合連合会)

後援 文部科学省(申請中)

期間 10月27日(水)から11月9日

(火)まで

標語 最後の頁を閉じた

違う私がいいた

### 《行事内容》

●「全国優良読書グループ表彰(第54回)」の実施

●「野間読書推進賞(第51回)」贈呈式開催

\* 感染症対策に配慮した形での開催・対応を検討しております

●ポスターおよび広報文書配布

(公共図書館、全国の小・中・高等学校図書館、書店、関係出版社、報道機関など)

●その他、道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

《各機関へお願いの行事内容》

\* 各地域の状況に応じた範囲でのご協力をお願い申し上げます

●公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「読書研究会」「読書のつどい」「作家・評議家による講演会」「図書雑誌展示会」「著者をかこむ会」などの開催。「読書感想文・感画コンクール」の実施

●道府県の読書推進運動協議会による道府県単位の「読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

「子どもの読書推進会議」2021年度第1回総会

### コロナ収束後に向けて さらなる読書推進の準備を

7月16日(金)、「子どもの読書推進会議」2021年度第1回総会が、東京都への緊急事態宣言発出にもなつてビデオ会議で開催され、2020年度の事業報告と収支決算書および2021年度の事業計画と収支予算書が説明・討議され承認された。

2020年度事業報告では、昨年5月3日～5日開催予定だった「上野の森親子ブックフェスタ」(主催：子どもの読書推進会議、日本児童図書出版協会、出版文化産業振興財団)が、新型コロナウイルス感染症対応のため、中止に



「上野の森 親子ブックフェスタ」  
公式サイト

いたつた経緯が説明された。

もうひとつの主要事業である絵本ワールドは、2020年度は8か所で開催予定だったが、新型コロナウイルス流行のため、実際に開催されたのは新潟市1か所にとどまった。

2021年度の事業計画および収支予算書については、絵本ワールドは現状2か所で開催予定であること、前年度と同額の予算を組んだことなどの説明があった。

また今年の5月3日～5日に実施された「上野の森親子ブックフェスタ 2021」について報告があった。今回は緊急事態宣言発出のため、上野公園での謝恩ブックセールを中止。予定していた講演会は千代田区の出版クラブホールに場所を移して3日間計6回を無観客で開催し、はじめての試みとしてオンラインで中継・配信をおこなった。あわせて暫定的な収支が説明された。

最後に各参加団体から活動報告のあと、野間省伸代表が挨拶して閉会となった。

「教科書川柳」発表

### だれもが手に取る教科書への 思いと愛情が川柳に！

一般社団法人教科書協会は、4月10日「教科書の日」制定10周年を記念して、「教科書にまつわるエピソード」、「教科書との思い出」などをテーマとした「教科書川柳」を募集、応募総数2510点より選ばれた入選作を、7月15日に発表した。

入選作は、ジュニアの部(中学生以下)と一般の部(高校生以上)の2部門それぞれ最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点。教科書協会のホームページで、楽しむことができる。

教科書協会では、「落書き、バラバラ漫画、隣の子との淡い恋の思い出。多くのエピソードはどれも楽しそうです。他人のエピソードなのに『そうそう』と自分自身の体験に重ねあわせられる。教科書は私たちのもつとも身近な存在であること」にあらためて気づかされた。

「NPOブックスタート全国研修会

### 親子をサポートする地域づくりを 考える

NPOブックスタートは、11月25日(木)にオンライン開催する「ブックスタート全国研修会 2021 親子の愛着形成を支える地域協働のかたち」の参加者を募集している。対象はブックスタートを実施、または実施検討中の自治体職員およびボランティアなど。

プログラムは周産期医療の現場で親子を見守ってきた三石知左子さん(小児科医)の講演「地域で育もう、子どもと家族！」社会の宝物を預かる私たち」と、NPOブックスタートによる報告・事例紹介「読みきかせの体験と絵本のプレゼントがもたらすもの」「コロナ禍のブックスタート」。

研修会はZoomを使用し、参加費は無料。11月12日(金)までNPOブックスタートのホームページで参加申し込みができる。



「教科書の日」10周年  
記念ロゴ

れます。世代を越えてのつながりももたらしてくれます。お寄せいただいたたくさん作品に共通するものは「教科書への愛情」であると感じます。これからもみなさまに愛される教科書を作っていきたいとの思いを強くしました」と述べている。

●教科書協会ホームページ  
<http://www.textbook.or.jp/>

また、12月1日(水)～24日(金)のあいだ、NPOブックスタートのYouTubeチャンネルで見逃し配信も予定されている(申し込み不要、無料)。

●NPOブックスタート  
ホームページ  
<https://www.bookstart.or.jp/>

●YouTubeチャンネル  
[https://www.youtube.com/channel/UCswq1I\\_FyeH7xis\\_HZXC](https://www.youtube.com/channel/UCswq1I_FyeH7xis_HZXC)  
ATRw/featured



野間読書推進賞受賞者の活動報告

コロナ禍の一年を振り返って  
コロナ後の子ども読書環境を豊かに！

読み聞かせグループ「ゆめくらぶ」代表 今井登美子

いままで経験のない状況におかれたとき、人間はなんと脆いものだろうか。

コロナ禍が拡がると、活動拠点としていた学校、図書館、地域コミュニティセンターなどが次々に閉じていった。感染拡大を防ぐためなのだが、自分の居場所がなくなってしまうと感じ、そのころの日記に「自分が空になったようだ」とある。

人と会えない、マスク越しの会話、ソーシャルディスタンスなどと言う舌をかみそうなことが飛び



「読み聞かせ初心者講座」も休講中再開が待ち遠しい！

び交う。「今日も何も無い」と、手帳の予定を赤ペンで消しながら、この状況がいつまで続くのだろうと、不安な気持ちが強くなつた。予定がないと家事に追われ、出かけるのは近くのスーパーだけ。体が重くて仕方がない。運動不足を実感した。近所の高齢の方は、お孫さんが、一日中ゲームばかりをしていると心配をしていた。

1学期は読み聞かせの活動はできず、2学期に期待するが、コロナの感染状況しただけではわからないのだ。6月に入ると、一部の乳

幼児向けの活動がやっと再会された。参加人数の制限を行ってマスク着用だ。「声が届くかしら？」久しぶりのおはなし会に、ママさんたちや赤ちゃんたちはニコニコして喜んでくれた。あら？あの赤ちゃん、もう立つてるわ！子どもたちの2〜3か月の時間の変化には、驚くばかり。おはなし会ができる！そんな小さな幸せを噛み

締めながらプログラムを進める。思い返せば、7人の子育ての間

は、息をするように子どもたちと本を読んでいた。楽しくてしかたない笑顔が並ぶ。「もっかいね！もっかいね！」膝に乗せて、何回も読んで、楽しんだものだ。いま、コロナ禍の中子どもたちはどうなのだろうか？本とふれあ

う場所が次々と、閉ざされていくのだから。私たちボランティアは、読んであげたい本がいっぱいあるし、楽しく遊んで繋がりたい。そんな思いが胸に、溢れて苦しいばかりだった。

猛暑の夏も終わりの8月末に、活動をする学校から、「2学期から校内の読み聞かせ活動をお願いしたい」と連絡が入る。感染対策が進み、少しずつ活動を再開できることは、とつてもうれしかった。

しかし、中津市内の学校では、対応はまちまちだった。開始する学校、年度内は、どうなるかわからない学校、私たちは、従うしかない。「感染したら、させたらどうしよう！」の思いにいつも揺れ

ていた。そんななか、なんとか読んでやりたいと、知恵を絞り、朗読を録音し、給食の時間に流してもらったり、オンラインで読み聞かせをしたり、でもそれは、私たちが望む本来の姿ではない。顔をあわせて、読んでいるときに子どもたちとの間に流れている、あ

心地よい空気を感ずたいのだ。

大分県内、中津市内にコロナの感染が広がって、2学期からのスタートは、10月に変更となった。コロナに振り回されてしまう。運動会が終わった。10月から読み聞かせもスタート。朝から元気ももらっている。11月も終わるころ、湯布院の鬼ヶ島文庫で、紙芝居の研修会を開いた。鬼ヶ島文庫の千

竈八重子さんは、すてきな方だ。7名の参加で、おたがいに演じあい、楽しく有意義な時間を持った。同じタイトルでも違う人が演じる

と味わいが違って見えるから不思議だ。

令和3年度に入り、コロナ感染が止まらない状況が続いている。新学期から読み聞かせは、スタートしていない。7月に入ってやっと許可が下りる。子どもたちは大喜びだったが、ボランティアや、先生方のなかには、コロナ禍の影響を心配する声があった。週1回



昨年11月、鬼ヶ島文庫にて  
右から2人目が今井さん、左端が千竈さん

10分の読み聞かせを、16年間続けてきて、はじめて、長期間読み聞かせがなかったのだ。特に、経験の少ない低学年に集中ができない子が多いらしい。

もっと深刻なのは、学校図書館司書の待遇だ。いつの間にか兼任校が増えたと聞く。私たち読書ボランティアや、PTAが長年、行政に要望を重ねて実現した学校司書配置なのだが、コロナにすっかり気を取られた結果だろうか？子どもたちの読書環境がコロナで

厳しいときこそ、学校図書館の充実と学校司書の配置は不可欠なのだ、しっかりと検証をして、再度要望をあげていこうと思う。2学期には、絵本を抱えて校門をくぐり、「子どもたちの笑顔に会いにいこう」。

### 優良読書グループの歩み (8)

2020年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

#### 紙芝居文化の会みやぎ

代表者 川端 英子

宮城県仙台市

〈推薦〉

宮城県読書推進運動協議会

「紙芝居」は、90年前に日本で生まれた独自の文化財です。紙芝居の理論と実演の研究を深め、海外にも発信していくと2001年12月に発足したのが、「紙芝居文化の会」です。宮城県でも、もつと紙芝居を広めたいという思いを持つ会員が2004年に2回目となる「紙芝居大学in宮城」を開催し、「紙芝居文化の会みやぎ」を立ちあげました。それから16年、会員は70名を超え、県内各地で大好きな紙芝居を演じています。

会員は「紙芝居文化の会会員」であること。代表者、事務局長など6人の運営委員が運営にあたり、事業実施には数人のサポー

ターがいます。

その活動は多岐にわたっています。県内図書館や文化施設、保育所・児童館・子育て支援施設など、子ども関連施設での「紙芝居おはなし会」の実施を年間45回以上。ほかに各会員個人の地元での活動も数多くあります。

紙芝居普及のための講座や、例会・紙芝居を見る会などの学びの会は年間10回程度。紙芝居はひとりでは楽しめないもので、実演を多



子どもも大人も楽しめる紙芝居を知ってほしい

く見ることが一番の学びです。

12月7日は「世界KAAMI HIBAIの日」。世界のあちこちで紙芝居を楽しむ日となっていますが、宮城では、「一日ずつと紙芝居」と称して、休みなく会員がリレー式に演じるのを、子どもから高齢者まで多くの方々に楽しんでいただいております。紙芝居つて、ずっと見続けても飽きないのです。

県内会員が一堂に会することはむずかしく、交流もなかなかできないことから通信を定期的に発行し、さまざまな情報や学びの資料を提供しています。また、会員に原稿を書いてもらうことにより、それぞれの地域での活動の様子も

知ることができ参考になります。全国の会員であると同時に宮城の会員でもあるので、全国の情報と地元の情報、両者を受けることができ参考になります。

子どもたちの大好きな紙芝居、私たち大人にも楽しい紙芝居、すばらしい作品がたくさんあります。

「絵本と紙芝居は車の両輪」といわれていますので、紙芝居の世界もさらに広めていきたいと思います。

(文責 事務局長 伊藤俊子)

#### ひだかおはなしの会

代表者 野田 ち代

和歌山県日高郡日高町

〈推薦〉

和歌山県読書推進運動協議会

ひだかおはなしの会は、2001年に日高町公民館の読み聞かせボランティア募集で集まった地域のおばあちゃん、ママなどの幅広い年齢層の11人でスタートしたボランティア団体です。

日高町中央公民館における月1回第3火曜日の乳幼児への読み聞かせ活動では1週間前に打ちあわせを行ない、絵本の選書や手遊び、パネルシアター、ペープサートなども取り入れて、楽しいおはなしの会になるよう意見を出しあっています。

みんなでパネルシアターを製作したり、会員の技能や知識を生かした手作りのパペット、手ぶくろシアター、エプロンシアターなどでも、おはなしの会を盛りあげています。

また、季節のイベントとして七夕飾りをお母さん、子どもたちと一緒に作って笹に飾り、公民館のロビーで展示していただいたり、

マスクなどコロナ対策をして子どもたちへ読み聞かせ



マスクなどコロナ対策をして子どもたちへ読み聞かせ

12月にはサンタさんも登場するクリスマス会を実施したりしています。

その他の活動として、町内の3つの小学校を訪問し、お昼休みを活用して読み聞かせを実施し、秋には読書指導も実施しています。町内の子育て支援センターや長期休暇中に学童保育クラブへの読み聞かせも行っています。

無理をせず助けあひながら楽しく活動してきましたが、コロナウイルス感染症の影響で数か月自粛期間がありました。いつから会を開催するか悩みましたが、自粛期間中にも開催の問い合わせがあつたと聞き、「こころした状況のなかでも楽しみにしてくれている方も

いるなら」と3密を避ける、フェイスマスク着用などの感染症対策を行いながら、6月から活動を再開しています。読み聞かせの大切さをわかってもらい、新しいことにも挑戦していきたいです。子どもたちの喜んでる顔を見ると、励みになります。

### お話しサークル「げやきつ子」

代表者 山崎愛理佳

広島県尾道市

〈推薦〉

広島県読書推進運動協議会

1999年秋に、旧綾目小学校の保護者4名で「あけびの森のお話し会」としてスタートし、

2003年に尾道市立御調中央小学校として統合開校した際に「お話しサークル『げやきつ子』」と改名しました。

当初は、毎週1回の昼休憩のおはなし会や図書室の本の整理、学期ごとの国語の授業での読み語り活動を行ってきました。2007年ごろ、学校行事の「はたる祭」でペープサートを制作上演したことをきっかけに、もつとみんなに見えるようにと、2010、2016年には模造紙2枚分の巨大紙芝居を毎年1作品ずつ制作し、上演してきました。授業や地域のイベントなど、さまざまな機会にも活用してきました。保護者だけでなく地域の方もメンバーとなり、一緒に制作や読み語りの活動をすることで横のつながりもできてきました。

現在は、5時間目の10分間の

学校や他のグループとの連携でさらに豊かなおはなしを



読書タイムでの読み語りや、3月の学年末に45分間のおはなし会などを行っています。絵本の世界を参加者と一緒に味わい、子どもたちのキラキラした表情にひきこまれて、楽しい時間を過ごさせてもらっています。子どもたちの「ありがとう。また来てね」のことが

に元気をもらいます。

その他、学校と連携し、先生方のリクエストを取り入れながら授業の参考になる本や図鑑、子どもたちの読書活動の推進につながる絵本などを、メンバーが尾道市立みつぎ子ども図書館「すくすく」へ出向いて選書し、図書館の団体貸出を利用して、各教室へ届ける活動も行っています。

今年度に入り、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一時は読み語りの活動を中止せざるを得なくなりました。しかし、子どもたちに絵本の世界を届けたいという思いから、先生方の協力の下、教材提示機を活用し、プロジェクトに絵本を大きく映して読み語りを行う、新たな試みに取り組んでいます。

また、長年の活動を通して、地域で同じように活動を行っている

団体が連携することの大切さを感じ、2020年、図書館を拠点に5つの団体で「御調地区読み語りネットワーク」みつぎおはなしの会」が結成されました。今後も、情報交換や研修の内容を、活動に生かしていきたいです。

そしていままで関わってくださった多くの方々に感謝すると共に、これからも地域の方と保護者が一緒となり、御調中央小学校の子どもたちにおはなしの世界を届け、心豊かな子どもたちの成長を見守りつつ、この活動が続くよう願っています。



# 最後の頁を閉じた 違ふ私がいいた

2021 第75回 読書週間 10月27日～11月9日



# 2021 第75回 読書週間 ポスターイラスト決定!

7月21日(水)、公益社団法人読書推進運動協議会の「読書週間ポスターイラスト選定事業委員会」(出席13名)が開催され、「2021第75回 読書週間」のポスター用イラストが決定しました。

本年度の応募総数は441点。事務局による第一次選考で26点を

選び、第二次選考ではデザイナー2名が12点を厳選。最終選考を事業委員会による選考委員会が行い、大賞、優秀賞、入選の受賞者を決定しました。

■優秀賞(賞金1万円)——3名

狭間理子さん(北海道札幌市)

伊藤 希さん(山形県大江町)

米山実希さん(埼玉県さいたま市)

■入選(記念品)——8名

木村葉子さん(北海道札幌市)

井之上竜子さん(埼玉県新座市)

伊藤優希さん(東京都杉並区)

蒔苗光亨子さん(東京都杉並区)

藤川道栄さん(神奈川県海老名市)

塩見キキさん(大阪府大阪市)

本川珠葵さん(兵庫県姫路市)

清康 一郎さん(宮城県宮崎市)

■大賞(賞金10万円)——1名  
しらいたまもさん(大阪府摂津市)

本年度のポスターイラストは、標語「最後の頁を閉じた 違う私



大賞  
(ポスターイラストに採用)  
しらいたまもさん

がいた」をテーマに募集しました。物語のキャラクターになった「私」、いままで知らなかった自分の内面に気づいた「私」など、「違う私」の表現に苦心した作品がよせられました。幼虫から成虫へ変態する昆虫をモチーフにした作品が多かったのが特徴的でした。

大賞はしらいたまもさんの、さわやかなイラストです。

優秀賞は、左のとおりです。受賞作はすべて、読書推進運動協議会ホームページに掲載します。



狭間理子さん



伊藤 希さん



米山実希さん

## 事務局報告(7月)

☆2日 会員各社へ総会議事録、会費請求書を送付

☆8日 機関紙「読書推進運動」644号入稿

☆9日 機関紙「読書推進運動」644号入稿

☆12日 読書週間ポスターイラスト募集 事務局選考

☆15日 「読書週間ポスターイラスト・デザイナー選考会」開催

☆15日 機関紙「読書推進運動」644号出来

☆15日 「優良読書クラブ表彰」推薦を各府県読書推進協へ依頼

☆16日 「敬老の日読書のすすめ」リーフレット、「読書週間」趣旨書入稿

・16日 「2021年度子ども読書推進会議 第1回総会」開催(Zoom会議)

☆21日 「読書週間ポスターイラスト選定事業委員会」開催

☆21日 日本雑協協会会員社へ「読書週間」広報広告掲載を依頼

☆26日 文部科学省に第75回「読書週間」後援名義使用許可願いを送付

☆27日 「2021年度第2回 常務理事会」を開催(Zoom会議)

☆29日 「敬老の日読書のすすめ」リーフレット、「読書週間」趣旨書 出来

☆31日 「野間読書推進賞」推薦締め切り(消印有効)

## 編集部 & 事務局の ひとこと

●今回、特集をお願いした今井登美子さんと、電話でお話ししました。おはなし会を再開したところ、年齢の低い子どもたちの集中力がかなり低下していることにショックを受けたとのこと。「子どもはあつという間に成長します。その成長期に、他者とふれあえない、おはなしを十分に聞けないことが、精神の成長にどれだけの影響をもたらすか……」

●それなのに、お住まいの市ではやっと実現した専任の学校司書が、複数校兼任に戻ってしまいました。これまで積みあげてきたものが、コロナに気を取られてしまつて……、あつという間に崩れてしまつて……。おはなし会が再開できた喜びだけでなく、失望までやつてきてしまいました。

●今井さんは、顔をあわせて話しようこと、ともに時間を過ごすこととうれしさと大切さを痛感されたそうです。巻頭で紹介いただいた中村哲さんも、バキスタンの人たちと顔をあわせ、ことばを交わし、一滴の水がもたらす未来を共有されました。井戸を掘り、用水路を建設する途中では、大雨で堰が流されたたり、治安が悪化して作業ができなかったり、何度も後退を余儀なくされたことがあつたはず。そのたびにまた、ひとつずつ、ひとつずつ積み重ねて砂漠に緑を蘇らせたのです。

●先週いただいた今井さんのメールの末尾に「米過から、学校司書の専任に向け行動開始します」とありました。相手の顔を見てことばを交わす喜びを知る人は、強いんです！(伸)